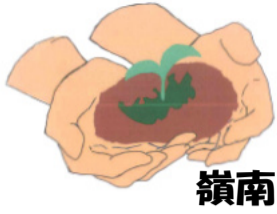


伸びゆく



嶺南

# 嶺南地域の自然に光をあてた あそぼーやの挑戦

水月湖と久々子湖をつなぐ浦見運河



田辺さんは美方高校出身で我らの大先輩。ボート部で日本一に輝いた経験がある。卒業後はオリンピックを目指してボートの強豪中央大学に進学し、四年時にはキャプテンを務めた。



## 笑顔のサイクルで地域を前進 田辺一彦さんの取り組み

これから新聞部では「伸びゆく嶺南」シリーズとして、北陸新幹線敦賀開業に向けて変化する嶺南地域を紹介していく。第一回は自然を活かした様々な取り組みを展開する田辺一彦さん取材した。

一九九九年、両親が営む若狭町海山の民宿を継ぐ。昔は海水浴客で賑わっていた宿も、その頃には宿泊客の減少で経営は難しくなっていた。また、自然が壊れてきていることも感じた。その状況を打開すべく田辺さんは、大企業が多額をかけても真似できない、自然を生かしたオンラインの事業をと二〇〇二年に「自然に大の字あそぼーや」を設立した。

## 大自然の魅力満載 「あそぼーや」

「あそぼーや」ではカヤックやサイクリングをしながら四季折々の大自然を体感できる。一番人気のカヤックツアーは、湖上で自然に包まれる感覚を味わえたり、リアス式海岸の迫力に圧倒されたりと参加者を魅了する。田辺さんが「笑ってもらえることが仕事」と話すように、地元を熟知したガイドの人情味あふれる語りも魅力の一つ。時に、参加者がポロッと悩みごとを話し出すことも。大らかなガイドに心癒されるひと時がそこにある。

人が誇りを持ち、自然を守る本気の行動を生む。このスパイラル効果が「自然に感謝する地域」、「住民が幸せを感じる地域」につながる。田辺さんは話す。また、田辺さんはこうした活動が地域活性化の助けになることにやりがいを感じている。そして活性化のものさしは来客者数ではなく移住者数だという。実際「あそぼーや」をきっかけに移住した人は十名。その方々が家族を増やし二十四名になった。この流れを止めてはいけない。持続してこの地に根付くことが大事。田辺さんの夢はまだまだたつづく。

## 幸せを探る勉強会 若狭ソーシャルビジネスカレッジ

七月三、四日「若狭ソーシャルビジネスカレッジ」が若狭町海山で行われた。半年間で



開講にあたり  
レクチャーを受ける

全八回のカリキュラムが組まれており、フィールドワークと座学でこれからの地域や自然やビジネスについて、参加者と講師陣が共に考える場だ。今回はその第一回目。移住者や大学生等オンラインを含め十名が参加した。美方高校からは三一二森脇拓哉さんと新聞部が参加した。

一日目は田辺一彦さんからカレッジ開講の経緯や趣旨について「幸せの探究」というテーマでお話を聞いた。その後、小型船に乗り込み三方五湖を巡った。湖



報道陣や町長を前に  
発表を行う三人

## 美高生が若狭町に提案 奨学金返還支援制度事業化へ

若狭町は美方高生が考案した奨学金返還支援制度を事業化した。八月二日、同町三万庁舎で考案した生徒三人が経緯や、基となったアイデアについて発表した。これは昨秋、美浜、若狭両町の職員らを迎えた探究学習発表会で、宮下妃海さん、藤長志帆さん、森下

ゆずさんのグループが同制度を盛り込んだ若狭町策案だ。それに賛同した若狭町職員が事業化を検討し、今年それが実現した。制度の内容は、町内へのUターンで五〇万円。町内に居住し、かつ町内事務所の勤務で一〇〇万円。町内居住かつ町内勤務の医療、介護職で一三〇万円を上限に町が奨学金を肩代わりするというのが。三人はこの支援策を考案するうえで、実際に他の市町村や府県が行っている奨学金返還支援制度を参考にしていた。また、本校一、二年生から集めたアンケート

も紹介。奨学金の返還支援があれば、将来的なUターンを希望しない生徒の大半が「地元に戻りたい」に転じた。と示した。渡辺英朗町長は「これからは若者のアイデア、発想力を活かして、町づくりを進展させたい。美方高校の生徒にはこれから政策のシンクタンクとして様々なことを探究してほしい」と探究学習に期待を込めた。高校生でも授業を通して制度をつくり、町に貢献できることが分かった。これから、自信をもって探究活動に取り組んでいこう。

## ～ビジネスカレッジに参加して～ R2卒業 菅原愛夏

澁沢さんは、人が幸せを感じて生きていくには、地に足が付き、社会の輪の中で必要とされ、自然の中でその恵みを得ながら必要最低限のモノを持ち、各世代が繋がりをもちつこと。更に、お金より共感や協働。DoよりBeが大切。働くことは生きること。互いが持つ弱みを許容して社会づくりを考える・・・と話していました。中でもお金の価値観について、私を含め多くの現代人は「働く＝お金＝幸せ」という考え方で、お金の執着するばかりに大事なものを見過してしまっているのではないかと気づかされました。お金を求めすぎること、資源は減り環境が悪化し、結果的には人がこの世界で生

きていくことが苦しくなる...今、幸せを求めることが、未来の自分たちの首を絞めることに繋がっているなんて考えたこともありませんでした。その気づきから、見失っている大事なものは、数字や文字では表せなくて、人・環境・自然・全ての生き物、そして未来。全ての繋がりの中で互いにバランスを保ち、思いやって生活を営んでいくこと、それこそが共生なのかなと思いました。

この社会の中で自分はどのように生きていくか、社会のために何が出来るかを、カレッジを通して考えていきたいです。

